



第47期

中間事業報告書

平成17年1月1日から平成17年6月30日まで



近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

経営理念

『さわやかさ創造企業』

近畿コカ・コーラボトリンググループは、
人々のうまいと豊かさにつながる機会を創造します。
人々の期待感や先進感にこたえます。
人々の健康な生活に貢献します。

ビジョン2006

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、
1本1本の製品を業界No.1のオペレーションで提供し、
より多くのお客様にさわやかなひとときをお届けします。
お客様を、お客様満足を実現するパートナーとして
大切に、共に成長します。
ひとりひとりがお客様満足を常に追求し、
やりがいと誇りをもって自己の役割と目標を完遂します。
日々の健全な企業活動を通じ、毎年、増益を達成します。

株主のみなさまには、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

当上半期における清涼飲料業界は、企業収益の改善、個人消費の持ち直し等国内景気が緩やかに回復していることに加え、緑茶飲料市場の拡大もあり、業界全体の販売数量は前年を上回ったと見られます。しかし、量販店での低価格販売や企業間のシェア獲得競争など、企業収益を圧迫する厳しい環境が続いております。

このような状況において、当社グループは、中期経営計画の目標達成のため、前期に引き続き「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を基軸とした活動を展開しました。

下半期につきましても、厳しい経営環境が続くことが予測されますが、当社グループにおきましては、日本コカ・コーラ株式会社を始めとするコカ・コーラシステム各社との連携強化や、企業間競争に打ち勝つための積極的な営業活動を展開いたします。併せて、CSR（企業の社会的責任）の推進を重点戦略に掲げ、品質保証体制の更なる強化を図るとともに、地域に密着した戦略的社会貢献やコンプライアンスの徹底を推進し、企業価値の向上と当社グループの業績向上に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成17年9月

代表取締役社長

守 都 正 和



営業の概況



ヨドバシカメラ マルチメディア梅田前での
サンプリングの様子



「一(はじめ)」



2005年上半期の新製品



コカ・コーラ「クーマ・クール・サマー!」キャンペーン

緑茶の大型新製品「一(はじめ)」を発売

販売面におきましては、お客様志向の営業活動の推進や販売チャネルごとの営業戦略の実践により営業力の強化を図りました。また、「つながる瞬間に。コカ・コーラ」等のキャンペーンを実施し、ブランド力を強化するとともに、「ジョージア エスプレッソカフェ」、「一(はじめ)」、「アクエリアス アクティブダイエット」、「コカ・コーラ レモン」等の新製品を投入し、販売数量の拡大に努めました。とりわけ「一(はじめ)」については急成長する緑茶飲料市場における新ブランドとして、販路拡大や販売促進活動を積極的に展開した結果、「一(はじめ)」の当初販売計画を大きく上回りました。

全国SCM(サプライチェーンマネジメント)が本格稼働

製品の需給面におきましては、年初よりコカ・コーラシステムの全製品を全国規模で統括する新サプライチェーンマネジメントが、コカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社を中心に始動しました。また、当社グループにおきましても、明石物流センターの建設に着工するなど新サプライチェーンマネジメントを推進しました。

お客様とのコミュニケーションの強化

経営管理面におきましては、内部監査体制の充実や間接業務の効率化を図るため組織改革を推進しました。また、「お客様から見た企業ブランド価値向上」の一環として京都工場見学を再開したほか、地域イベントへの協賛や社員による地域コミュニティへの協賛等を積極的に展開し、お客様とのダイレクトコミュニケーションの強化に努めました。

平成17年中間期の業績について

これらの結果、当中間期は、販売数量は前年を上回りましたが、当期より新サプライチェーンマネジメントが始動したことに伴い、従来当社が製造し、他ボトラーへ販売していたポストミックス製品等の売上が約62億円無くなったこともあり、連結売上高は861億6千9百万円(前年同期比5.2%減)となりました。連結経常利益は24億3千1百万円(前年同期比16.3%減)となり、連結中間純利益は13億6千5百万円(前年同期比42.6%増)となりました。

2004～2006年中期経営計画

2005年度の取組み

【お客様から見た企業ブランド価値向上】

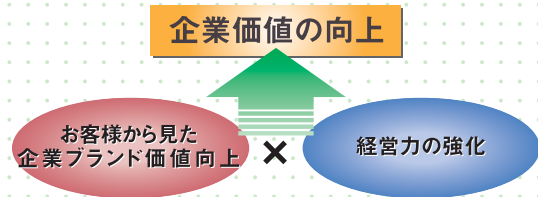
- ・お客様ニーズ、購買行動に対応した営業活動の実施
- ・お客様から信頼される品質保証、品質管理体制の確立
- ・CSR（企業の社会的責任）の推進
- ・工場見学再開などお客様とのダイレクトコミュニケーションの強化

【経営力の強化】

- ・コカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社による全国SCMへの適合
- ・お客様の支持に裏付けられた収益を伴うボリューム成長
- ※収益を伴うボリューム成長＝RGM（Revenue Grows Management）
- ・組織改革（グループポートフォリオの見直し）
- ・新PDCAサイクル（BSC）の当社グループへの拡大

※BSC＝バランスコアカード

「身近な企業」から
「好きな企業」へ
ステージアップ



「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を両輪とした戦略に基づく活動を通して、企業価値の向上に努めます。

CSR（企業の社会的責任）の推進

社会から信頼される企業グループを目指して、当社は本年7月1日付で組織改定を行い、当社グループのCSRを推進する機能として地域共生推進部を設置いたしました。さらにCSRに対する取組みを明確にするため、社長を本部長としたCSR本部を設置。地域共生推進部、お客様満足推進部、品質保証部を統括し、「当社グループが地域社会の一員として信頼され、なくてはならない存在になり、地域社会の発展と当社グループの発展が同時に実現されること」を目指して活動してまいります。

「人と人をうるおす Coca-Cola」が動き始めました。

コカ・コーラシステムの統一企業スローガン「人と人をうるおす Coca-Cola」を本年8月1日に制定いたしました。

これは、コカ・コーラシステムが「一つの企業体 Coca-Cola」として、「お客様に信頼され、選択される」企業でありたいという思いと、私たちの販売エリアである大阪、兵庫、京都の2府1県のお客様に最も身近で「好き」と言っていただける飲料企業グループになるという強い意志を表しています。

単にのどの渇きを“うるおす”のではなく、あらゆる生活の場面に“うるおい”をもたらし、人と人とのかわりをもうるおす企業、つまり、全ての事業活動において、お客様とのつながりを最も大切にする企業を目指します。

人と人をうるおす
Coca-Cola

明石ロジスティクスセンター建設

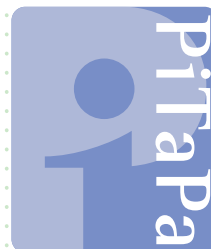
コカ・コーラシステムの全国統合サプライチェーンマネジメントが2005年1月より本格稼働。当社ではシステム内の物流コスト低減を図るため、現在、当社明石工場隣接地に明石ロジスティクスセンターを建設しており、本年11月の竣工を予定しております。



完成予想図▶

「PiTaPa」対応自動販売機を本格展開

株式会社 スルッとKANSAIとの事業提携により、後払い式交通カード「PiTaPa」が利用できる自動販売機を本格的に展開しています。駅構内はもとより、商業施設、学校等利用可能なロケーションが拡大。お客様の利便性向上に貢献し、今後更なる広がりを見せるキャッシュレス時代における競争優位を確立します。



マジカルエコラのファクトリーツアー

私たちがお届けする製品の安全性、信頼性を楽しみながら知っていただくために、京都工場見学「マジカルエコラのファクトリーツアー」を1月よりスタートさせました。「見せる」と「魅せる」の融合をコンセプトに、ツアーガイドとエコラちゃんが3つのゾーンをご案内。おかげさまで大変ご好評をいただいております。来場者数は当初見込みの年間2万人を大きく上回るペースで推移しております。



ボトラー関連事業

近畿コカ・コーラボトリング株式会社とノウハウや戦略・情報を共有し、ボトラー事業全体をサポートしています。

■関西ビバレッジサービス株式会社

自動販売機のオペレーション、品質管理、修理など自動販売機ビジネスの関連業務を中心とした業務をトータルにサポートします。

■株式会社ネスコ

アミューズメント業界を中心に、自動販売機を通じて紙カップ、缶飲料を販売しています。

■近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社

近畿コカ・コーラボトリング株式会社と三笠コカ・コーラボトリング株式会社の委託を受け、コカ・コーラ社製品の製造を行っています。

■関西ロジスティクス株式会社

得意先への配送業務、および工場への輸送・保管・荷役業務を行います。

ボトラー関連以外の事業

外食事業、物販事業、不動産事業、リース事業など幅広い事業を展開しています。

■株式会社レックスエステート

不動産関連の調査・企画・設計から仲介、管理まで総合的に展開しています。

■株式会社レックスリース

法人向けオートリースや保険代理業などを展開しています。

■株式会社セイコーコーポレートジャパン

車両の修理、整備等、車両にかかわる総合的なサービスを展開しています。

■株式会社カディアック

関西空港内において、自動販売機による清涼飲料水の販売を行っています。

■株式会社シーアンドシー

食品の販売・外食・物販事業などを展開しています。

■株式会社秋吉システムズ

やきとりの名門「秋吉」を運営しています。

「ジョージア」5年ぶりのリニューアル&新広告キャンペーン

日本の清涼飲料マーケットにおいて最も販売数量の多いブランド「ジョージア」が、今後10年先も引き続き消費者の高い支持を獲得していくために、これまでのコアターゲット層に加え、若年層に対してもブランド価値をより強く訴求すべく、全面リニューアルを5年ぶりに実施しました。メインカラーをこれまでのブルーからシルバーに変更し、クールさやシャープさを訴求。全体的により現代的で洗練された印象を与えるデザインとなりました。



新広告キャンペーン

現行の愛飲者の支持基盤を維持しつつ、今後のコーヒー市場を支える若年層ユーザーの共感を得ることを目的として新広告キャンペーンを展開します。若年層の更なる共感を得るためのブランドメッセージ広告と、製品の品質感を訴求する製品広告の二段構成で展開していきます。

「ジョージア」2005年のラインアップ



ジョージア
オリジナル



ジョージア
カフェ・オ・レ



ジョージア
エメラルドマウンテン
ブレンド



ジョージア
エスプレッソカフェ



ジョージア
ロイヤルブレンド



ジョージア
ヨーロピアンブレンド



ジョージア
エンプレミアムブラック



ジョージア
グランデ



ジョージア
カフェラッテ



ジョージア
モカラッテ



「ジョージア グランデ 190g缶」新登場

「ジョージア グランデ」は、コーヒーの味わいを決定する生豆の品質、並びに生豆の焙煎・抽出・副原料など、様々なポイントにおいて工夫を凝らして開発されました。

熟練したコーヒー鑑定士によって厳選された、上質で美味しい大粒のブラジル産コーヒー豆を100%使用。コクがありながらすっきりと飲みやすい、コーヒー本来の味わいと香りを実現した新しい缶コーヒーです。



その他の新製品

HOT専用ペットボトル商品や、お子様に人気の「Qoo」ブランドから新フレーバー追加等、幅広いラインアップを展開いたします。

HOT専用 ペットボトル商品



「一 (はじめ)」



深み香ばし
爽健美茶



七色亜茶



紅茶花伝
ロイヤルミルクティー



ジョージア
ホットカフェラッテ

Qoo もりもりくだもの



環境・地域社会への取組み

私たちは、「さわやか創造企業」の経営理念のもと、事業活動において発生する廃棄物等のリサイクルや、「温室効果ガス削減中長期計画」の策定等、環境への取組みも積極的に行っています。また、地域とともに成長してきた企業として、地域社会に貢献してまいります。

環境への取組み



ペットボトルを再利用した空容器回収ボックスを導入

空容器の散乱を防止するために自動販売機横に空容器回収ボックスを設置していますが、私たちは回収したペットボトルを100%再利用した回収ボックスの導入を始めています。リサイクルの際にも、粉碎したペットボトルを洗浄・乾燥後じかに再生ペット製品へと成型することで、融解・結晶化の工程をなくし、環境などに配慮しました。



ノンフロン型 自動販売機の導入

コカ・コーラシステムでは、地球温暖化防止への取組みとして自動販売機のノンフロン化に関する基本方針を決定いたしました。本年度よりCO₂を冷媒として使用したノンフロン型自動販売機等を先行導入し、2020年までに全国約98万台の自動販売機をノンフロン型自動販売機へ全面的に切り替えることを目指します。



NGV

地球にやさしい車両を導入

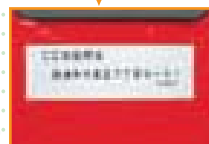
当社は地域に根ざした企業として、環境問題への取組みを積極的に行っています。

営業活動において多数の車両を使用する当社グループでは、従来よりエコドライブの推進等により一定の成果をあげてきましたが、環境負荷低減への更なる積極的な取組みの一環として、地球にやさしい天然ガスを使用したトラック等の導入を進めています。

地域社会に貢献する自動販売機

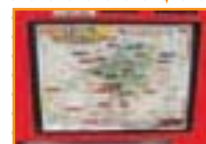
緊急通報時に役立つ住所表示

携帯電話からの消防、警察への緊急通報が増加する中、通報場所の特定が困難となっています。そこで当社は2府1県にある屋外設置の自動販売機への住所表示ステッカーの貼付けを行っています。



自動販売機に観光マップを掲示

観光地を訪れたみなさまが自動販売機にて商品を購入した際、現地確認や、目的地の把握が出来るように、姫路城や天橋立等に設置している自動販売機に観光マップを掲示する取組みを開始しています。



地域イベントへの協賛

当社は創業以来、スポーツ、文化、教育、福祉活動を通じて、地域のみなさまとともに歩んでまいりました。これからも、躍動感や感動を味わっていただけるように、地域に密着した活動を通じてコミュニティづくりをお手伝いしていきます。

■プラスエキスポ

小学生から社会人まで毎年6,000人以上が集う音楽の祭典。本年度はさまざまな国の音楽を力いっぱい演奏し、吹奏楽で音楽の世界博覧会が展開されました。



■全日本少年サッカー大会

全国大会出場を目指し、将来のスター選手を目指す小学生が熱戦を展開。当社は協賛企業としてさわやかなプレーを行う選手たちをサポートしています。



■さわやか大阪一輪車競技大会

幼稚園児からベテランまで幅広い層の一輪車愛好家が集う、西日本最大の一輪車競技大会です。



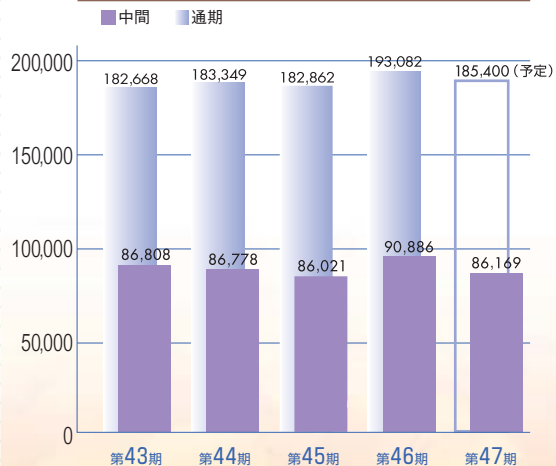
■近畿中学生バレーボール選抜優勝大会

近畿2府4県の地区予選を勝ち抜いてきた中学生による大会です。

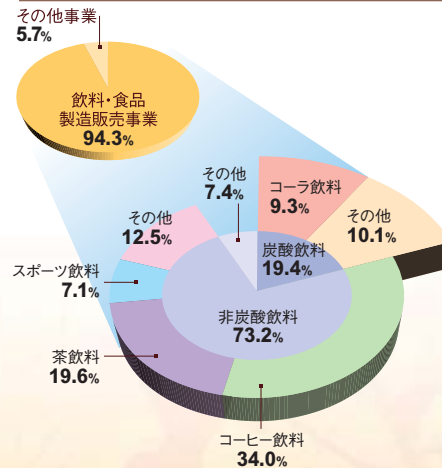
財務ハイライト(連結)

■売上高

単位:百万円

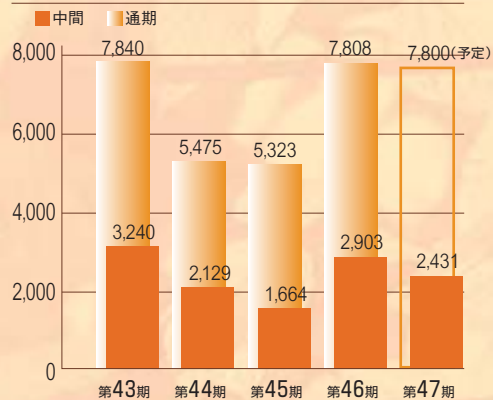


■売上高構成比(第47期中間)



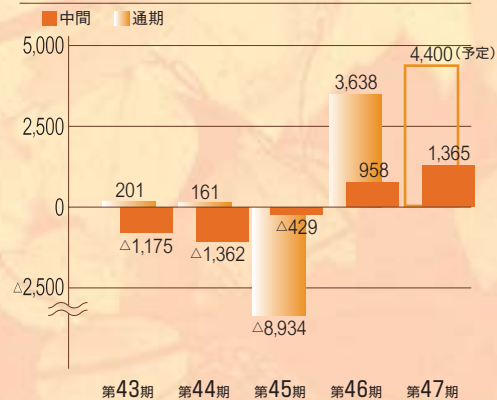
■経常利益

単位:百万円



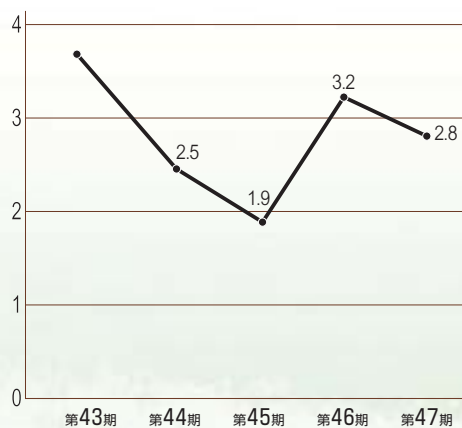
■中間(当期)純利益又は中間(当期)純損失

単位:百万円



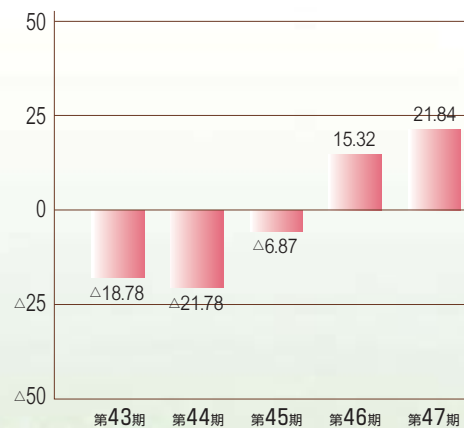
■売上高経常利益率(中間)

単位:%



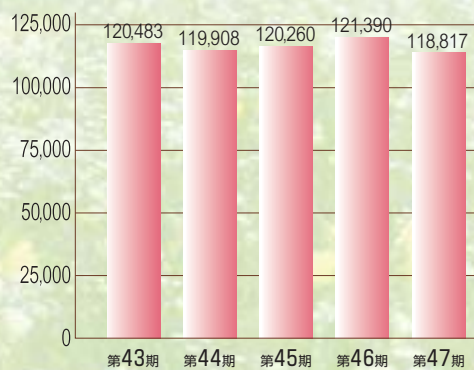
■1株あたり中間純利益又は中間純損失

単位:円



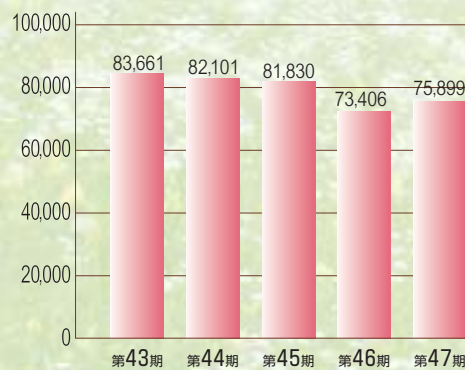
■総資産(中間)

単位:百万円



■株主資本(中間)

単位:百万円



連結決算レポート

■連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期 平成17年6月30日現在	前中間期 平成16年6月30日現在	前期 平成16年12月31日現在
資産の部				
流 動 資 産		33,470	34,184	35,366
現金及び預金		4,463	4,277	4,609
受取手形及び売掛金		12,036	13,450	12,634
CHECK.1 棚 卸 資 産		5,930	8,903	9,040
繰延税金資産		3,110	2,556	3,095
そ の 他		7,982	5,098	6,036
貸倒引当金		△53	△103	△51
固 定 資 産		85,346	87,205	84,083
有 形 固 定 資 産		65,822	65,365	64,146
建物及び構築物		14,594	14,567	15,086
機械装置及び運搬具		7,445	9,842	8,226
CHECK.2 販 売 機 器		15,377	14,969	14,145
土 地		19,823	20,189	19,823
建設仮勘定		1,917	38	503
リース資産		4,782	3,918	4,396
そ の 他		1,881	1,839	1,963
無 形 固 定 資 産		3,558	3,344	3,508
投資その他の資産		15,965	18,495	16,428
投資有価証券		6,487	7,046	6,489
繰延税金資産		4,723	6,371	4,903
そ の 他		5,239	5,596	5,539
貸倒引当金		△485	△518	△502
資 産 合 計		118,817	121,390	119,449

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期 平成17年6月30日現在	前中間期 平成16年6月30日現在	前期 平成16年12月31日現在
負債の部				
流 動 負 債		27,472	29,223	26,392
支払手形及び買掛金		4,076	7,710	7,328
CHECK.4 短 期 借 入 金		14,863	12,392	8,417
未 払 金		3,281	4,020	4,869
未払法人税等		344	250	393
そ の 他		4,905	4,849	5,382
固 定 負 債		15,358	18,687	17,563
CHECK.4 長 期 借 入 金		9,197	12,932	11,591
退職給付引当金		1,639	1,123	1,368
役員退職慰労引当金		206	204	253
繰延税金負債		418	468	416
そ の 他		3,895	3,957	3,933
負 債 合 計		42,830	47,911	43,955
少数株主持分				
少 数 株 主 持 分		88	73	80
資本の部				
資 本 金		10,948	10,948	10,948
資 本 剰 余 金		10,040	10,040	10,040
利 益 剰 余 金		54,704	52,091	54,209
その他有価証券評価差額金		258	360	258
自 己 株 式		△52	△33	△42
資 本 合 計		75,899	73,406	75,413
負債・少数株主持分及び資本合計		118,817	121,390	119,449

貸借対照表

CHECK.1 棚卸資産

日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更により、製品在庫が減少し、前中間期に比べて29億7千2百万円減少しています。

CHECK.2 販売機器

自動販売機の稼働台数の増加により、前中間期に比べて4億8百万円増加しています。

CHECK.3 支払手形及び買掛金

日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更により、原材料購入が減少し、前中間期に比べて36億3千3百万円減少しています。

CHECK.4 借入金(短期・長期)

主に当社単体の借入金返済により、前中間期に比べて12億6千4百万円減少しています。

■連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当中間期 平成17年 1月 1日から 平成17年6月30日まで	前中間期 平成16年 1月 1日から 平成16年6月30日まで	前期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
CHECK.5 売 上 高	86,169	90,886	193,082
売 上 原 価	47,387	49,094	105,115
売 上 総 利 益	38,781	41,791	87,967
販売費及び一般管理費	36,274	38,730	79,976
CHECK.6 営 業 利 益	2,506	3,060	7,991
営 業 外 収 益	153	204	488
営 業 外 費 用	229	360	671
経 常 利 益	2,431	2,903	7,808
特 別 利 益	4	14	259
特 別 損 失	642	1,601	2,761
税金等調整前中間 (当期)純利益	1,793	1,316	5,306
法人税、住民税及び事業税	253	246	597
法人税等調整額	160	101	1,047
少 数 株 主 利 益	△12	△10	△22
CHECK.7 中間(当期)純利益	1,365	958	3,638

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当中間期 平成17年 1月 1日から 平成17年6月30日まで	前中間期 平成16年 1月 1日から 平成16年6月30日まで	前期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,547	5,533	18,500
CHECK.8 投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,982	△8,425	△15,156
CHECK.9 財務活動によるキャッシュ・フロー	3,288	46	△5,846
現金及び現金同等物の減少額	△146	△2,844	△2,503
現金及び現金同等物の期首残高	4,579	7,082	7,082
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	4,433	4,237	4,579

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■連結剰余金計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	当中間期 平成17年 1月 1日から 平成17年6月30日まで	前中間期 平成16年 1月 1日から 平成16年6月30日まで	前期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	10,040	10,040	10,040
資本剰余金中間期末(期末)残高	10,040	10,040	10,040
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	54,209	51,792	51,792
利益剰余金増加高	1,365	958	3,638
中間(当期)純利益	1,365	958	3,638
利益剰余金減少高	870	659	1,222
配 当 金	750	562	1,125
役 員 賞 与	119	96	96
利益剰余金中間期末(期末)残高	54,704	52,091	54,209

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

損益計算書

CHECK.5 売上高

日本のコカ・コーラシステムにおける全国規模での製品需給システムの変更等による影響で、前中間期に比べて47億1千6百万円減少しています。

CHECK.6 営業利益

新製品導入や市場激化に伴うマーケティング費用の増加により、前中間期に比べて5億5千4百万円減少しています。

CHECK.7 中間純利益

転籍に伴う特別退職金の減少等により、前中間期に比べて4億7百万円増加しています。

キャッシュ・フロー計算書

CHECK.8 投資活動によるキャッシュ・フロー

資金の支出は、販売機器等有形固定資産の取得による支出が90億6千3百万円あったこと等により、99億8千2百万円(前中間期比15億5千7百万円増)となりました。

CHECK.9 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金の収入は、借入金による収入や配当金の支払等により、32億8千8百万円(前中間期比 32億4千1百万円増)となりました。

単体決算レポート

■単体貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期 平成17年6月30日現在	前中間期 平成16年6月30日現在	前期 平成16年12月31日現在
資産の部				
流 動 資 産		29,189	30,362	31,126
固 定 資 産		77,160	79,528	75,677
有 形 固 定 資 産		53,621	53,342	51,918
無 形 固 定 資 産		3,227	2,791	3,145
投資その他の資産		20,310	23,394	20,613
資 産 合 計		106,349	109,891	106,803
負債の部				
流 動 負 債		24,004	25,789	22,719
固 定 負 債		10,335	13,353	11,896
負 債 合 計		34,339	39,143	34,616
資本の部				
資 本 金		10,948	10,948	10,948
資 本 剰 余 金		10,040	10,040	10,040
利 益 剰 余 金		50,834	49,459	51,006
その他有価証券評価差額金		238	333	235
自 己 株 式		△51	△33	△42
資 本 合 計		72,009	70,747	72,187
負 債 ・ 資 本 合 計		106,349	109,891	106,803

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

■単体損益計算書

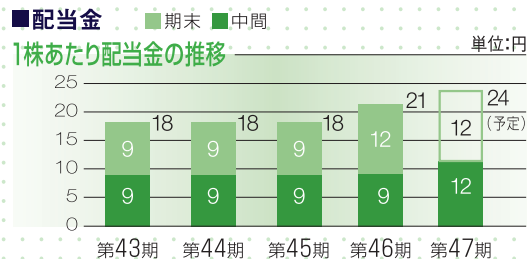
(単位:百万円)

科 目	期 別	当中間期 平成17年 1月 1日から 平成17年6月30日まで	前中間期 平成16年 1月 1日から 平成16年6月30日まで	前期 平成16年 1月 1日から 平成16年12月31日まで
売 上 高		75,080	80,354	170,932
売 上 原 価		43,349	45,582	97,333
売 上 総 利 益		31,730	34,771	73,598
販売費及び一般管理費		30,718	33,099	67,915
営 業 利 益		1,011	1,672	5,683
営 業 外 収 益		651	553	1,127
営 業 外 費 用		245	354	669
経 常 利 益		1,417	1,871	6,140
特 別 利 益		4	13	270
特 別 損 失		615	1,583	2,723
税引前中間(当期)純利益		805	301	3,687
法人税、住民税及び事業税		12	15	30
法人税等調整額		163	94	1,356
中間(当期)純利益		630	191	2,301
前 期 繰 越 利 益		1,270	1,334	1,334
中 間 配 当 額		—	—	562
中間(当期)未処分利益		1,900	1,526	3,072

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

配当金について

当社は2004年から2006年までの3ヵ年の中期経営計画を策定し、「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を両輪とした活動を進め、企業価値の向上を図っており、その一環として、株主様重視の観点から平成16年12月期（第46期）の期末配当金を増額いたしました。平成17年12月期（第47期）につきましては、1株につき年間24円（中間12円）配当を予定しております。



単元株式数の変更と株主優待制度の見直し

投資家のみなさまにより投資していただきやすい環境を整えるとともに、株式の流動性の向上を図るため、6月1日より1単元の株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

また、これに伴い、当社へのご理解を一層深めていただくことを目的として、優待内容を見直しました。

【株主優待制度の概要】

■対象株主

毎年12月31日現在の当社株主名簿および実質株主名簿に記載された100株以上保有株主のみなさまを対象とします。

■優待内容

次の基準の保有株式数に応じて、年1回贈呈いたします。

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	当社製品 (700円相当)
500株以上1,000株未満	当社製品 (1,400円相当)
1,000株以上	当社製品 (3,300円相当)

■贈呈時期

毎年4月中旬に、株主名簿に記載された住所へ発送いたします。



※写真はイメージです。実際の優待品とは異なる場合があります。

株式情報

■株式の状況 (平成17年6月30日現在)

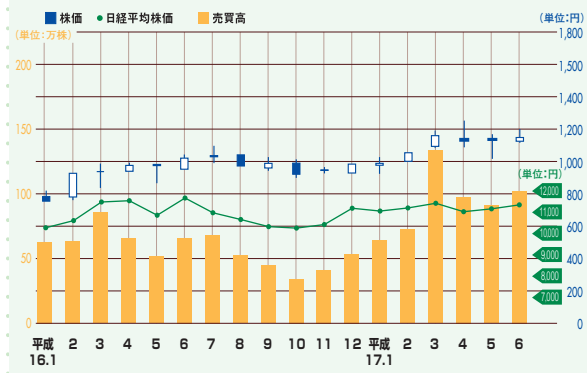
会社が発行する株式の総数：150,000,000株
発行済株式総数：62,591,049株 株主数：5,562名

■大株主の状況 (平成17年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
麒麟麦酒株式会社	25,779	41.25
三菱重工食品包装機械株式会社	8,674	13.88
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口	2,281	3.65
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	2,189	3.50
近畿コカ・コーラボトリング グループ社員持株会	1,698	2.72
神大和株式会社	1,050	1.68
ビービーエイチメリアルリンチ グローバルアロケーションファンド	1,007	1.61
株式会社弥谷	600	0.96
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・リミテッド	513	0.82
ゴールドマン・サックス・ インターナショナル	407	0.65

■株価・日経平均株価・売買高の推移

(株価：大阪証券取引所・売買高：大阪証券取引所、東京証券取引所立会内)



■株主メモ

決算期 12月31日

株主確定基準日 12月31日

定時株主総会、利益配当金

中間配当金 6月30日

定時株主総会 3月

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物の送付先 〒171-8508
電話照会先 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

1単元の株式数 100株

公告掲載新聞 日本経済新聞
貸借対照表および損益計算書の開示は
当社ホームページに掲載しております。

(インターネットホームページURL) <http://www.kinki.ccbc.co.jp>



●最新情報はこちらで
ご覧いただけます。

お知らせ 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満
株式買取請求に必要な各用紙、および株式の
相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人の
フリーダイヤル0120-86-4490(自動音声応答)
で24時間承っておりますので、ご利用ください。

証券コード 2576



近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
〒566-8513 大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号